



手取川の「霞堤」が土木学会選奨土木遺産に認定されました

～ 伝統的な治水工法の「霞堤」がクローズアップ ～

- 公益社団法人土木学会が選考する土木遺産に手取川の「霞堤」が認定されました。
- 手取川の「霞堤」は、先人達が洪水から生命・財産を水害から守るため、平面的に不連続な堤防を築いたものです。その「霞堤」は今なお大切にされ、機能することで地域住民に安全安心を与えています。
- 「霞堤」は、扇状地上に築かれた前近代の治水技術を伝える大規模で貴重な土木遺産であり、見事な不連続堤を遺している事から今回の受賞にいたりました。

【霞堤とは】

堤防のある区間に開口部を設け、上流側の堤防と下流側の堤防が、二重になるようにした不連続な堤防のことです。

本堤が破堤してもそのはん濫水を次の堤防で待ち構え、被害拡大を防止し、またその流れを速やかに本川に戻すというもので、急流河川の治水方策としては、合理的な機能とされています。また手取川では、過去昭和 9 年の大水害でも多くの集落への被害を軽減しました。

【平成 24 年度の授与式は以下のとおり行われます】

- ・日時 平成 24 年 10 月 25 日 (木) 10:30～11:00
- ・場所 国土交通省中部地方整備局 中部技術事務所 構内
(〒461-0047 名古屋市東区大幸南一丁目 1 番 15 号, 052-723-5701)

【問い合わせ先】

国土交通省 北陸地方整備局 金沢河川国道事務所
調査第一課長 大角 一浩
TEL: 076-264-9910 (直通)
FAX: 076-233-9612

手取川の「霞堤」が土木学会の平成24年度「選奨土木遺産」に認定されました(9月26日)

手取川の「霞堤」

○石川県下最大の河川である手取川は、その豊かな水量から水力発電、農業用水、工業用水に利用されるなど、地域の暮らしに深く結びついています。

○一方、日本を代表する急流河川〈現流白山:2,702mから河口までの勾配は約1/30〉であり、洪水により人命や資産が失われた歴史を有します。(至近大水害:昭和9年7月洪水。死者行方不明者109名、家屋被害750戸等)

○こうしたなか先人達は、洪水から生命・財産を守るため、平面的に不連続な堤防「霞堤」を築きました。これは万一氾濫した場合に次の堤防でその流れを食い止め、氾濫流を本川に戻す役割を果たすものです。

受賞の理由

○手取川の「霞堤」は、扇状地上に築かれた前近代の治水技術を伝える貴重な土木遺産であり、現在もその機能有するとともに、見事な不連続堤を遺していることから、今回、土木学会の「選奨土木遺産」に選定されました。



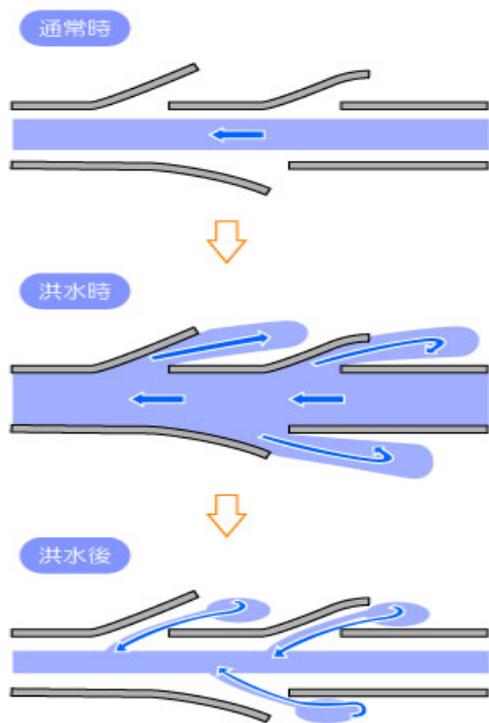
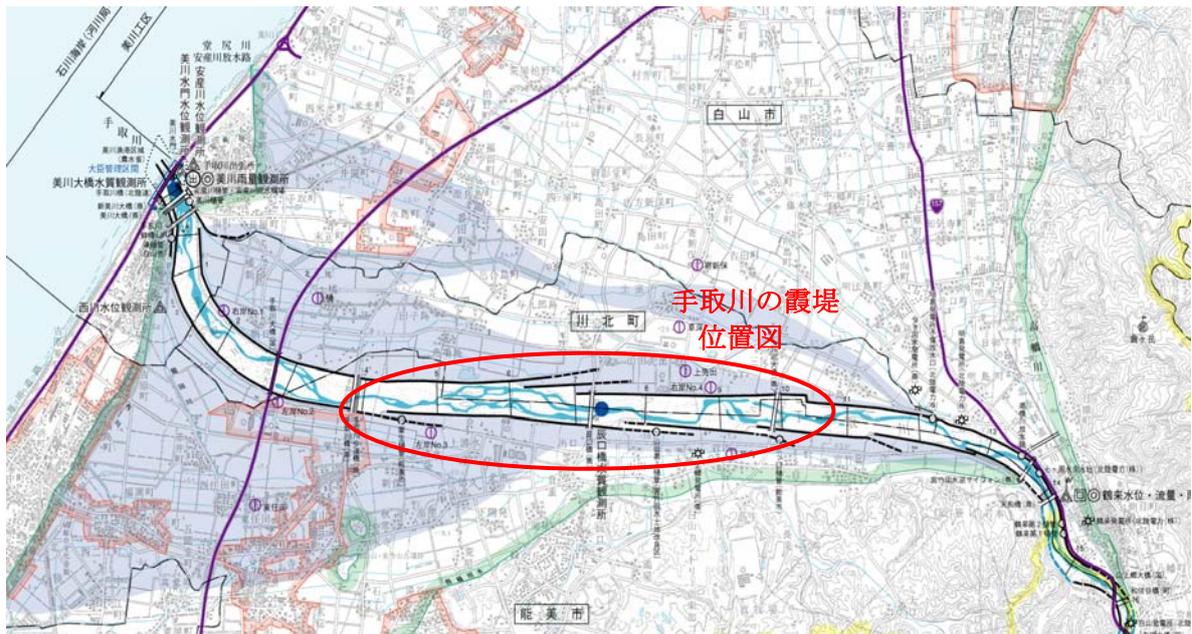
手取川(7.0km) 川北町辰口橋付近



【選奨土木遺産制度】

- ・近代土木施設(幕末~昭和20年代)を対象として 社会へのアピール、まちづくりへの活用などを促すことを目的に、平成12年度から設けられているもの。
- ・金沢河川国道事務所関係では、平成16年度に甚之助谷砂防堰堤群が認定されています。
- ・今年度の授与式は、10月25日(木)於:中部地方整備局にて行われます。

参考資料 1



霞堤の機能

【学会推奨土木遺産とは】

土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、平成12年に認定制度を設立。推薦および一般公募により、年間20件程度を選出しています。

【土木学会とは】

土木工学に関する教育機関や研究機関、さらには建設業関係者や土木コンサルタントなどで構成される日本の学術団体。土木工学の進歩および土木事業の発達ならびに土木技術者の資質向上を図り、学術文化の進展と社会の発展に寄与することを目指すための活動を行っている。東京都新宿区に事務局がある。1914年11月24日に社団法人として設立。

参考資料 2

このほか手取川には、右岸 7.8km において、昭和 8 年に施工した石積み護岸堤防が昭和 9 年 7 月の大洪水にも耐え、現在も堤防としての役割を果たしています。また、当時の施工内容を示す、貴重な銘板（石積み護岸の石に直接書かれている）も見つかり、治水の大切さの教戒として歴史的価値があることから金沢河川国道事務所では、保護を行っています。



右岸 7.8km 地点にある銘板

記載内容：これより上流 1.0km 昭和 8 年 予算 と書いてあります
(一部破損の為全文判読不能)